

『CONPAS』(新・港湾情報システム)試験運用結果 ～規模を拡大した試験運用でCONPASの有効性を確認～

1.試験運用の概要

(1) 試験運用の目的

セキュリティを確保しつつ、手続きの迅速化、ゲート前の混雑緩和等を図り、コンテナ輸送の効率化及び生産性の向上を図ることを目的に『CONPAS』の開発を行っています。

今般、試験運用参加店社と予約時間枠数を拡大して試験運用を行い、事前予約制度の実現に向けた検証を実施しました。

(2) 実施概要

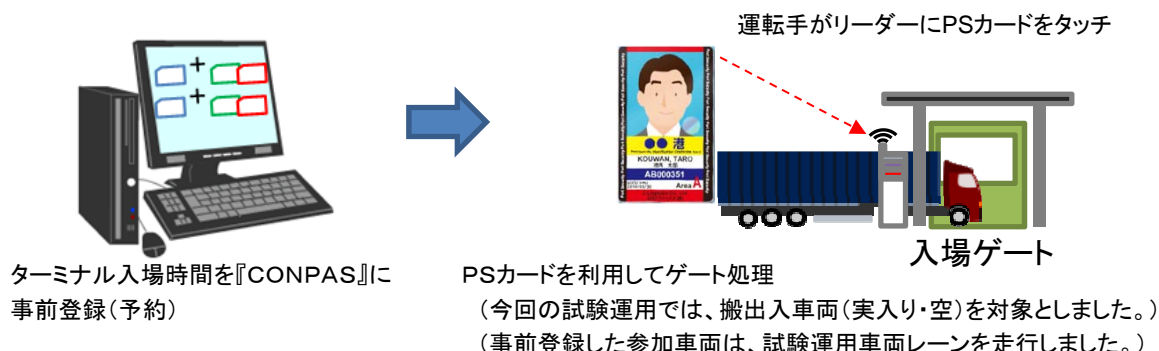
- 期間：令和元年6月26日(水)～7月5日(金) ※日曜日除く
- 場所：横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナル
- 実施内容：搬出入コンテナ(実入り・空)を対象とした事前予約制度の運用
- 協力：神奈川県トラック協会 海上コンテナ部会、横浜港海上コンテナ協会
南本牧ふ頭コンテナターミナル
- 参加店社数：31店社 (前回の試験運用時：20店社)
- 予約時間枠：(搬入) 2台/3分 (前回の試験運用時：1台/3分)
(搬出) 2台/3分 (前回の試験運用時：2台/3分)

(平成30年1～3月、8～9月、11～12月、平成31年2～3月、平成31年4月～令和元年5月の試験運用に引き続き、6回目の試験運用となります。)

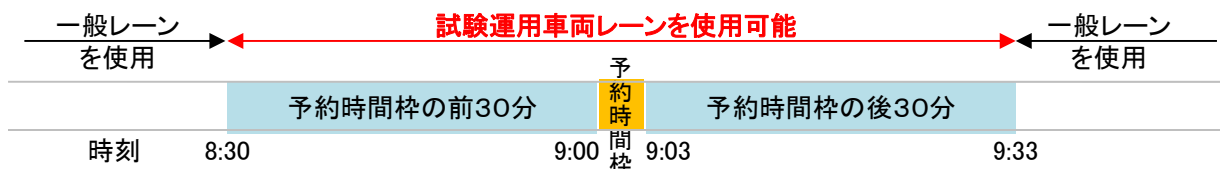
(3) 試験運用のしくみ

- 予約は、原則、搬出入日の7日前の14時からゲート到着の直前まで可能
- 予約時間枠(3分単位)の前後30分以内に到着した場合のみ、試験運用車両レーンを走行可能

(予約時間の前後30分間に到着することができなかった車両は、一般車両と同様の走行経路を走行)



【運用ルールのイメージ(9:00～9:03に予約した場合の例)】



2. 試験運用の結果

(1) 予約率※1

- 搬入においては、予約率が約80% (1,861台/2,340台) となり、CONPAS(事前予約制)に対する高いニーズが確認されました。比較的混雑の少ない搬出においては、予約率が12% (予約台数:313台/2,520台)にとどまりました。

※1 予約可能台数に占める予約台数の割合。

(2) ゲート前待機時間の変化

- 全搬入車両のうち、CONPAS予約車の割合が約14%※2を占めました。
- 事前予約制度を導入しない場合に比べて、ターミナル全体の搬入車両の総待機時間※3が約10%削減しました。

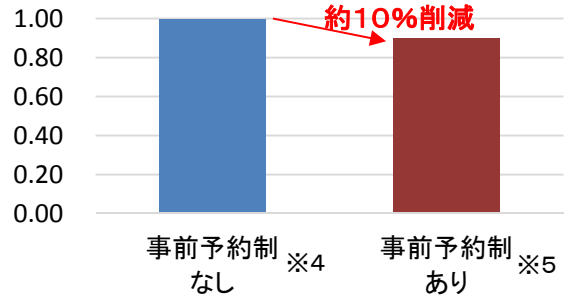
※2 7月1日から5日までの5日間を対象として算出

※3 7月1日から5日までの5日間において、同時刻にコンテナターミナルに到着したCONPAS予約車とCONPAS非予約車(1,005台ずつ)の待機時間を計測。これを基に算出した予約車と非予約車それぞれの1台当たりの平均待機時間を用いて、5日間の全搬入車両の総待機時間を算出

※4 CONPAS非予約車の平均待機時間 × (CONPAS非予約車数+CONPAS予約車数)
(CONPAS予約車が予約せず、CONPAS非予約車と同じ待機時間となると仮定して算出)

※5 CONPAS非予約車の平均待機時間 × CONPAS非予約車数 + CONPAS予約車の平均待機時間 × CONPAS予約車数

＜ターミナル全体の搬入車両総待機時間の変化＞

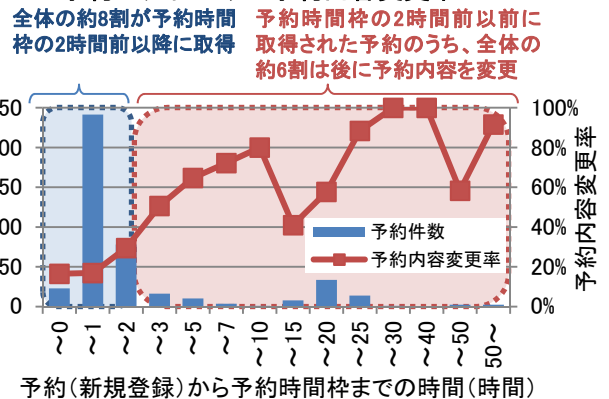


(3) 予約時間枠の利用状況

- 予約時間枠の直前に新規登録される予約が多く、予約時間枠の2時間前以降の予約が全体の約8割を占めました。
- 予約時間枠の2時間前以前に新規登録された予約の約6割で、予約内容※6の変更が行われました。

※6 予約時間枠、運転手、トラクタヘッド 等

＜予約のタイミングと予約内容変更率＞



3. 今後の予定

- さらに試験運用参加店社や予約時間枠数の拡大を図りながら、事前予約制度の実現のため、引き続き試験運用を実施する予定(次回は本年秋頃)です。
- 予約時間枠の利用状況を踏まえ、計画的に予約しやすく、変更登録の頻度が少なくなるよう、より活用しやすい事前予約制度の検討を進めていきます。
- 引き続き、利用者のご意見も聞きながら、参加店社数や予約率の向上、さらには横浜港の他ターミナルや他港への展開を目指して検討を進めていきます。

お問い合わせ

国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 クルース振興・港湾物流企画室 公平・森川
TEL 045-211-7437
MAIL pa.ktr-portlogistics@ml.mlit.go.jp